

愛知サークル6月例会報告

2020年6月14日(日) 一宮生涯学習会館 参加：8名

久しぶりに全サークルメンバーが集まるとともに、会員の勤務校の新任教員2人が学級映像を持参して参加した。

I 文学教材の追求

「はりねずみときんか」(3年)

教材解釈が初めてという2人の参加を受けて、音読、ラベリングと基本に立ち返って丁寧に進めた。問題作りでは、授業者が5場面を希望したので、どこに一番の「変だ、おかしい。」があるかはさておき、全員で5場面の中から考えた。もちろん、5場面からも言葉レベルや、行動レベルでの「変だ、おかしい。」は見つげられた。それを見つけるのに教員の経験年数は余り関係がない。愛知サークルの弱さがここにあると痛感したことである。

教材全体からみると、どこに大問題があるかはやはり考えたい。6場面の「くもに言われたにもかかわらず、はりねずみは金貨をみちばたにおいたのは変だ。」は、適当ではないか。

「走れ」(4年)

㊸段落「ラストという言葉が、こんなにほこらしく聞こえたことは初めてだった。」

「ラストはビリ」である。「ビリがほこらしいなんて、変だ、おかしい。原因は何か」と追求していきたい。追求するときは、その一文を「分ける」。そして、言葉レベルで調べていく。というように、丁寧に順序だててやっていきたい。

「ほこらしい」とは、「人前で自慢できるようなことをして、うれしさを隠し切れない様子」である。

- のぶよは、何がうれしかったのか。
- のぶよの願いは何だったのか。

こういった、問題を前に戻って調べていきたい。

II 3分間学級映像から学ぶ

- 教師に今の子どもの状況が見えているか。見えているなら、一度ストップをかけて、子どものその姿を否定して、新たな課題を与えるようにしていきたい。
- 子どもに語る言葉に着目。語り掛けるを意識したい。
- 子どもが自分から話し始めるようにしていきたい。
- 前年度の指導をそのままにしないで、自分のフィルターに一度かける必要がある。
- 児童の小さな声が気になるか、ならないか。声はみんなに届けるという意識をもたせたい。

III 実践検討

○図工「レース編み」5年 「かわいい小犬」

狙いは、「筆先を使う」練習ということをお忘れずにやりたい。時間を効率的に使うには、「こうなってほしくないという失敗例を初めに見せる。分けてやり、途中でチェックタイムを作る。」とよい。